本朝宮雀

四

漏

共七

内閣文庫
和書
類
號
冊
函
架

内閣文庫
番號 和 34801
冊數 7 (4)
函號 142 63

国立公文書館
National Archives of Japan

編修地誌備用典籍

閑217

中納言や雅孝卿家　目録

蘭宮　蟻通

宗像　宇治橋姫

宇佐　足柄

嚴嶋

比賣語曽

吉備

河蘇

熊田

白鳥（しらとり）の神
膽吹（いぶき）明神
氣比（けひ）の神
香椎（かうしい）
宇弥（うみ）
柘崎（ざき）
松浦（まつら）
高良（かうら）
玉津嶋（つしま）の神

本朝ころや雀巻第四

南宮（なんぐう）

南社は天むし天皇の白鳳（はくほう）ねん中はじめてあられ
つもし頼（ぐ）は正一位勲（くん）一等（とう）金山彦（かなやまひこ）の大神とあり
金山彦（かなやまのひこ）大神をいざなみのみこと火の神をうみたまへ
まふときおこりしみをぞふくえたまひし吐（たぐ）りまります
ました神となりて金山彦といへりこれ五行の
金神なりはじめはみのゝ国不破郡（ふはのこほり）の府中（ふちう）にあり
しをのちに南宮山（やま）にうつされあり南宮（なんぐう）といへ
りまつりはとりとおさめまつるみのゝ国の人

ハみる氏神とそり
一統よ天むてんまうよりのりとせとくくみの
おに入ゐ不破のせきをふきぎて大友の宮をう
うたまてりけどきみの中山よいのり神乃やー
ろとあくたまてりとそしいり
みてうてき平の將門ゞ首とびてそやこにいるとき
まこの神矢をきうらてゝ將門うくびとゆくまをさい
ありとれよりとけれ神と箭路神首宮といふと

宗像

当社は天照太神の御むすめ多り太神素盞嗚とちかひさまひくくうめうところのひめぎみを田心姫こと申しるぐ乃明神つぎ乃湍津姫こと申宮佐明神次の市杵嶋姫こと也あさの巖嶋の明神うりこ乃三女といこひなりて胸肩の人氏神とす

宇佐

日の神素盞嗚のみくしの十握の劔を食して一女をうみたまふ瀛津嶋姫命これ別宮杵嶋姫命なり又九握乃劔を食て湍津姫命をうみたまふ又八握の劔を食くゝ田霧姫命をうみたまふ是素盞嗚尊の三女をもつくゝ乃中玉に宇佐島にあまくだりたまひ道主貴といこれ宇佐乃水沼の君の氏ぐ

宇佐宗像いつくしま乃社神さこの三女なりそのち宇佐の宮八幡といこひなりとあり

嚴島

天照太神素盞嗚尊乃八坂瓊之曲玉をもつくり
めう神と市杵嶋姫乃命とをこれわきの出いろく
ゆの明神なり
又推古帝乃御ときに舍人佐伯鞍職恩賀的
つりすると舟に乗乃方ちくれる井乃忙とゝり
てまろに三人の神女いませりその神女あちらく
ゆやうはれいいりくちの明神なり而王ともも
らんとくまりとのたまひ々れで鞍職いまゝ伝し
うずおりなもげりふたり三女の乃くまりくやこた

くうやこ
空墨いづ爾しもとりさうきれ枝をふくんでや
びすんとのあまつまりたんどゝ上るれば
をそのつぎなるみわらにちゑとそた
まふといつり
みあつ祝よ明神ゝ南方むくの成ゝとるゝ姿
竭羅龍王のれむすえんみて天照太神のれまご
といつり本地
法華ハ大日 みぎふぐん 中の六ハ 十一面観音
宮ん ハ ありんでん
春ぞく神ハ ーやう 毛くし ふどう
ちざうりすぐくハまんの別名とそうり

比賣語曽

崇仁天皇の御時都怒我阿羅斯等といふ人意
富加羅國より渡り来あり田器を
はきくひて牛たちまち化して女となる
ゆゑに牛のあとを一村の村人ことごと
にまねびて牛のあとを孫ゆくまでまねびて
ありけり一人の翁ありていとめが求る牛ハこの
むらの中にあるを郡ひどもこの牛をこ
ろして食らひさくに牛のぬしきたりて牛をとり
あばそのあとをいとなすあふまてもたるものをやらんと
いへどもそ郡ひども牛のあとをいとり行地をうえん
とおもひてとゝはぐ郡のうちにまつる神をゆんとこ

たへよとをしへまつる神ハ白き石なりこれ板
敷のもとにおくべしうやまへ郡ひども白き
石と牛のぬしにあたへ郡ひども白き
石をとりもちきたりてうやまへ
ねやのうちにおくべしうばらの石化して女となり
をとめとなりて此の頃新羅人大ようろこびてこれを
ちぎりをこめんとせしかばつねのようにさりぬ後に
その童女日本の新羅にいたりて比賣語曽の社
神となり給へり

吉備

いざなぎいざなみの二神吉備の子別とうめりと
なり　又孝昊天皇の御子彦五十狭芹彦のそ又
生雅武彦乃みことの子吉備の臣の始の祖なり　又
素戔嗚乃蛇ときりたまふ剣今吉備乃神部許
よりとるむこれなる歟社の祝なり
社家の祝すハ孝昊天皇のよりうちのよりうち一人ハ備
前乃一文一人ハ備中乃一文一人ハ備後乃一文となん
祝中備中乃吉備津の宮の内よ釜ありかんなぎの湯
とまいらさる釜となん系図の人（巫）と釜とよあむ

ちぐさたきいろるさまてふ釜なをばよろこ公
ちげうるれどいのるみずとなり
京今京平京平
まろ〇ろくきびの中山ひよせな
細谷川岩吉はれやけき
とさくろう吉俊の中山とうて
ちとせと云せ法き久ろ邦

阿蘇

當社ハ景行天皇つしゐよりにみゆさ行ひ
ときさ阿蘇乃ゐ地ゆりさびうりけまどこてよハ人
なりきゆいうゆとの行ひまに阿蘇都彦と又阿
蘇都媛乃二神いで行ひくられまして伝ゆとの
行いあちまちよ人なりゆまふその伝ゆとなんい
そのちまなと乃肥後乃ゐなり

熱田（あつた）

南社（みなみのやしろ）に劔（つるぎ）を勸（すゝ）め奉（たてまつ）る

むかしすさのをのみことといひしものあまたなる行ひ
ぬらにとりてとゝまりあるとおもはれしを伊勢おきさなきむと
めを中よりおきてくるすしをそのありさまをと
らい行へで前乃いとくらいそなれは八人の子わらせ八人の蛇
のあめふうるみつまてくいま一人のこまてりといつりみ
ことその蛇をうらあしばそのむをめとられはえさ物
むやとり行いそれば前おすろこびくなるとなん
そのち蛇をうらあまりよは蛇乃尾は一乃つるぎさま

うらつるぎ代天照大神はまり行ひけもこれは
もも天のいはとはうらは近所伊布貴山はおと
ち劔なりとの行ひそのれまこ瓊杵尊わまく
ぎりまりまりすとこにこ乃劔をこのあるこ乃
物ものあまいねこ
崇神（すじん）天皇乃御時わるさめ行ふ　景行（けいこう）天皇の
劔とハ伊勢太神宮よりおさめ行ふ　倭武尊（やまとたけのみこと）日本武尊をたけ
れ時東夷（あづまえみし）をしたがへ
そしいるふみこの世太神宮よまで行ひけもバ
るさ劔をわるたまふ東夷（あづまえみし）をあこ野
よ火をつけ焼とねいこ草をなぎ行

大さ二ねとうんこのつるぎ蛇尾よりあらはるとき
雲かくりよりけつよりよりて天のむら雲剣といひしより
いまは草薙剣とふといつりみとかつ行ひく剣を
太神宮よりつ行ひねうちこの剣をわつるの
文よりおさめけるとなり
やまとだけのみこと東よりかへりあまひらよりおて
まつのぶるく尾張氏のむすめ宮簀媛とおりひとづ
まりさまふいぶさ山よりあらはる城をまとゆたた
まひくかりよりゆさあゆみさまつる大なる蛇あり
みこと蛇をこえ行さまひるまいそのあいうんけるぶお
りれあよかつり尾津よりいたく能褒野りしと
しこ三十つのふるくたまひねとなり
みことのつるぎはいまは尾張の国年魚市郡熱田社
よりありとなん　又尾張国吾湯市村あつる乃祝
部乃ちりなる神の社よりありとなん　これ
ものいはぬ神なり
あつ祝よりつるいつの菅葉といふとつる日本
ふ三処あり　すは紀列熊野二ノ宮　猿列富士三ノ宮
尾列熱田なり　秦乃始皇帝徐市といふものり
童女五百人とそんく菅葉をとめさせけるよ徐
市尾列熱田よりとどまりわりとこれ熱田大明神なり
と一説

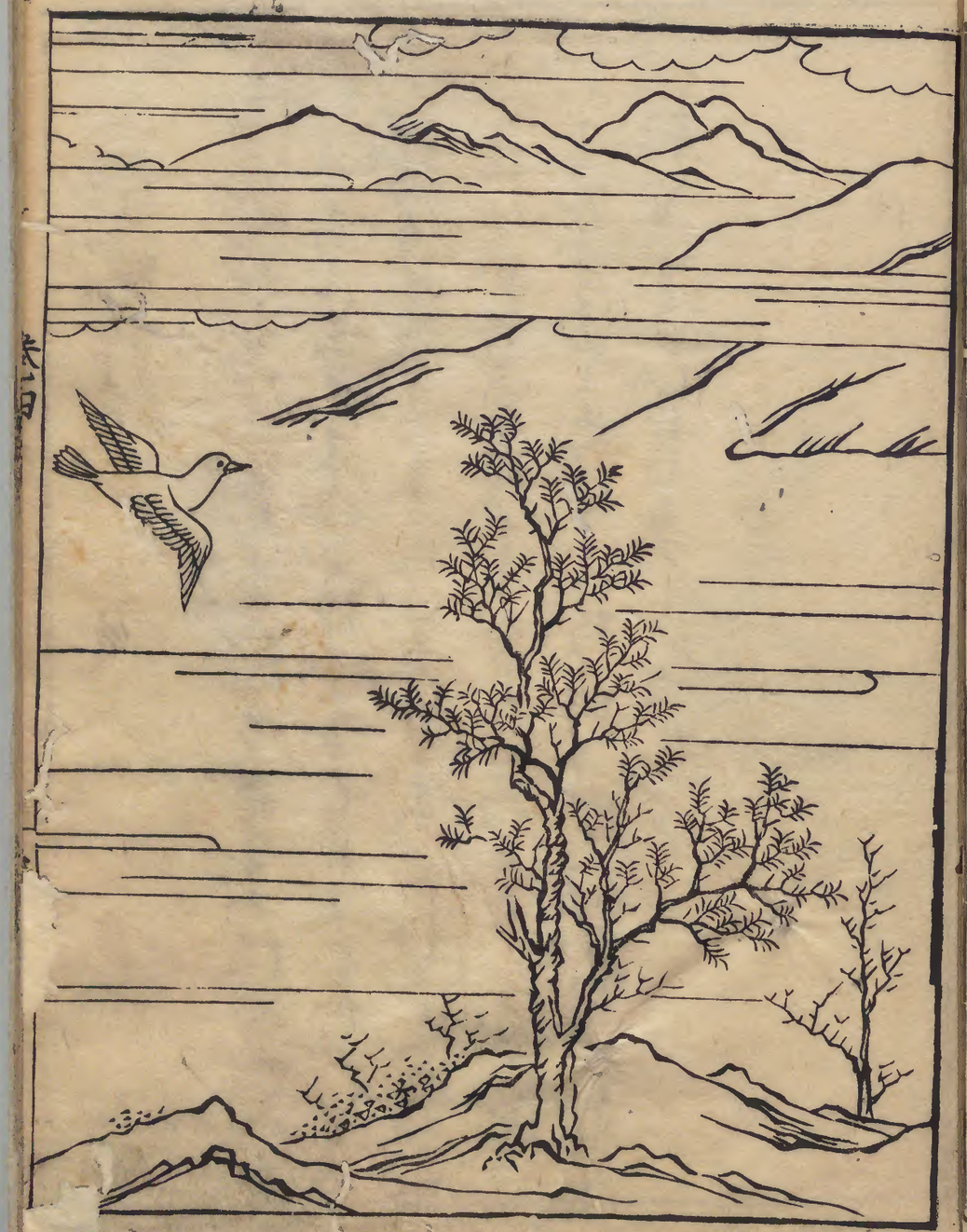
又熱田の前より山わりをとて業といふとあり明神唐八楊貴妃とうり玄宗のあとをみぐるほとをとり文の中より一の石をうりそのもちさ二尺ばかりなる也も楊貴妃の形とあり文武かより玄太輔の祠とてあるは玄宗皇帝の祠とうり　元暦より源の頼朝鶴が岡のかたらう

熱田大明神をとくたまうとなん

熱田大明神の御手

楊ぐるかちうをのうれかをとみは

わるかをもをは貴とそのうを



白鳥明神

この浜神ゐ日ゐ武ゐるなりみてと東ゐりかゐり行
ひくゐゐの能褒野といふ処まて崩ゐ行ひその
処ゐ御ゐりまるに白鳥となりて大和のほとゝび行
御棺ゐすゑあゐ御衣ゐ
ゐ原ゐり河内の舊市の邑ゐいるゐにゐり三処ゐ白
鳥の明神といふひゐるといふり　みさゐゐさのゐ
へゐとゝび行ふゐいくゐひゐるとゐり

膿吹明神

やまとだけのみこと東へ行給ひ膿吹山より
山神こゝろとなすとやうつりこえ給ふ
に大蛇ありて口よりけむりとゝ
なりふきたるとゝて行ぬとあり是蛇ハ
いかりのおりて行給ひ蛇乃せいとゝなる
の山神といふなるべし

氣比明神

仲哀天皇二年二月にそのきさき氣長足姫のみことと越前の敦賀よみゆきし行い行幸とて
てゝわたまつりとれを旬飯の宮と氣比乃
宮とも申かをり

香椎

この社宮ハ仲哀天皇なり天皇つくしちくぜんのおに
みゆきし所ひ儀縣より香椎の宮よりなをり
天平寶字六年にあらたに巨勢とつかひ幣

香椎宮の板とゝ彩羅おをうたんゑ為也
彩羅
ちりやぬ宮ひかりの宮乃あや板ハ
神ゝみそぎさまとてるかをり

宇佐

神功皇后彩羅國をまつぐくかつ行ひ給
前のおうみの宮ひいりたまひ譽田の天皇を
誕生し給ひそのゝぢを宇佐の宮とも

菊潭

ちくぜんの国那珂郡ささきの郷八瀬田の天皇
白ちゝとなりちゝび行ふをいとひなきとなり
白ちゝ白ゐるがきあるちゝ白なるれ白ちゝとびゐる
となんいゆへふゝ八情といひしこの松原より飛
宮南乃三宇乃ちゝ紙うづゝけるよりまつ松とな
ちゝにうゝくゝ濤のまゝといふなり

續古今

ちりやまう神式よう魚一第濤の
松ハ久へしきゝ之ゝ第ゝう 法印清

松浦

南北おもむき原の宮合乃一男廣継といふ人あり
いつり廣継の妻玄肪僧正と密通をしゆへ天子へ
上げもとゝたゆゝしあるにより廣継
むほんとおこせり天子より東人飯麿とうつく
ふ下したまひ廣継をふなぐ海へ入
つまねうのちはくしの観世音寺に導師となりて玄
肪ゆり行ひしゆへ廣継の霊玄肪のゆゝと多く奥稲
寺におこすといつりすゝるゝ廣継の霊と松浦の社
といそひけるみそやこれ御霊の一所なり

又慶縄みづ〳〵わづらひときりやとびけーとなり
その昊赤鏡（はくせききやう）とうきりみるへなどろきおそれけり今
のまつ〳〵のかぐらの明神とれるり

手千載意
わひらんとおもふろいまろなん
後の神やらふちろ春　蕉雨

高良

當社ハ武内乃宿禰乃靈也此人ハ三百十よさい
きて景行成務仲哀神功應神仁徳の六代
ハ[illegible]ハ情の別ハよいきりまゝ神功
皇后新羅と世を治ら[illegible]とき武内の石ふ平海
珠と海中へ[illegible]より武内を玉垂命とゝ
ゆ宮に祭ること二百四十八年ハ又死期ハ[illegible]ずと
ゑ[illegible]補任よりハ

玉津鳴明神

山城神主衣通姫といひ侍るをとりひめのれ
ちぶへうらうらして衣とをしけるふり衣通
とをもり元恭亭幸し行よきさき衣通のお
孫なりわるゆへ元恭帝おほ藤原乃実をたてり
そとりひめをはさま又河内乃第淳の実たねき
たまふといつりされど衣通姫みどとおりしたは
ひらくなん

わづせらづくきすひなりさがに乃
くもの糸まひ乃ふるまひ

蟻通（ありどおし）　和泉

けぶかきをりをりわるふ智恵（のち）とりかぐひてもぐ
ま乃中にをりけるとりこれを緒（を）
とつけていひるもべ中将（なかのしやう）ありもちよこ
川どねりはより蟻（あり）とへ蟻乃こゝふいとをつけるこ
ゝりもひへとをりけるとりへけるふ
をろうしまと我ゆとうんゆとをめけるれ
いりその中ゆをまつり神とあんわるへ乃ゆめ
なわるふまぐれるむ乃をねきく
ありどおりとおれいたゝをや

そのち紀のつゝゆゝ紀伊代ゆりかりけるり
のまるるまづひけまバ

貫之

ゝゝゝゝあやめもちねおはをり
ありどおりとおりへべーやい

宇治橋姫

當社八雄宮の神と夫婦となんいひ雄宮神と
しひめかうしひ所ひ宮れだうぢ乃川浪たりと
心てわみすみうしの明神と夫婦ともいてり
義平年中よ將門むりんとき乃平のさだまと
あぢ乃ぶ乃さで文と二人をうをめつりけるよたぶ
文もあぢ乃ぶのさもより乃後ぶよより忠賞なり
しゆんよ忠文うまへくもつよけるとあんその海
し井を宇治の雄宮明神とす

足利

南北朝継躰天皇より誉田乃五世孫にあたる天皇八御母の御ゆかりにて西ノ京をみど崩じたまひしを世ゝ大体の大連金村の大きおむしろくまつりたる位よつけなるうのさきゝ三ゐ坂中井にはまり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan